

No.	実施大学	授業科目名	担当教員	単位数	開講区分	曜日	予定回数	時間	実施場所	定員
23	創価大学	西洋経済史	西田 哲史	4	秋学期	火 木	30	火 9:00～10:30 木 10:45～12:15	創価大学	若干名

#### 【到達目標】

歴史の授業である以上、重要な年号や固有名詞を覚えることは基本であります。それに加え、中世以降の欧米における経済・社会の発展のダイナミズムとメカニズムを理解することを目指します。とりわけ、「近代の工業化」－資本主義システムの生成と展開－について理解し、説明できるようになることがこの授業の目標です。

具体的には、

1. 近代の工業化の歴史－資本主義発展の歴史－について多面的に考察できる。たとえば、「どうしてヨーロッパで最初の工業化が起こったのか」、「産業革命に関する議論」、「ヨーロッパ大陸におけるさまざまな工業化」などについて、きちんと関連付けながら理解・考察できるようになることです。
  2. 1の点とも関連しますが、そうした歴史発展の因果関係を論理的に説明できる。
  3. 課題や中間・定期試験の答案作成にあたっては、論点が明確な文章を作成することができる。
- 上記の到達目標を達成した場合は、「B」以上の評価となります。

#### 【授業の概要】

「経済史」という学問が対象とするのは広く経済現象・経済活動の歴史であり、それは経済・社会の発展のメカニズムを理解するうえで、大変に重要な役割を果たしています。たとえば、現代の世界経済はヨーロッパ経済が世界に拡大する形で形成されたものであります。日本やアジア諸国の経済成長はその経済システムのなかで達成されたものであります。ですから、「西洋経済史」－より具体的に言えば、資本主義という経済システムの発生とその変遷－を学ぶことは、単に「歴史に学ぶ」という有用性にとどまるだけでなく、現代の経済・社会を理解する上で、きわめて重要な意味をもっています。

この講義では、中世社会の解体のなかから近代資本主義が徐々に形成され、経済・社会を世界規模で覆っていくプロセス、すなわち、「近代の工業化」について、やはり中世以降という非常に長いスパンで把握する必要がある近代市場経済の生成と展開(市場経済化)という視点を含めつつ論じたいと思います。

#### 【授業内容】

1. オリエンテーション－西洋経済史の課題
2. 経済史の基本的枠組み:視角と方法
3. 西洋封建制度の構造と変容／中世ヨーロッパ都市の成立とその特徴
4. 中世ヨーロッパにおける商業・貿易の発展と封建制の危機
5. ヨーロッパの拡大と国際競争の開始:近代世界の成立と大航海時代
6. 16世紀～17世紀のヨーロッパ経済
7. 17世紀～18世紀の経済危機と国家形成:①オランダ;②イギリス
8. 17世紀～18世紀の経済危機と国家形成(続き):②イギリス;③フランス
9. 17世紀～18世紀の経済危機と国家形成(続き):③フランス;④ドイツ
10. ヨーロッパの工業化－なぜ最初にヨーロッパが工業化に成功したのか
11. 「産業革命」をめぐる議論－学説の変遷－
12. 「産業革命」をめぐる議論－学説の変遷－(続き)
13. イギリス産業革命とその社会的帰結
14. イギリス産業革命とその社会的帰結(続き)／ヨーロッパ大陸における産業革命:多様な工業化－フランスとドイツを中心に
15. ヨーロッパ大陸における産業革命:多様な工業化－フランスとドイツを中心に(続き)
16. 中間試験
17. 産業革命に関する映像資料 & 授業内レポート作成
18. アメリカ合衆国における工業化
19. アメリカ合衆国における工業化(続き)／帝国主義と世界の一体化:①対外的膨張政策の要因;②帝国主義とは何か
20. 帝国主義と世界の一体化(続き):③帝国主義列強による世界分割(イギリス、フランス、ドイツ、ロシア、アメリカ)
21. 帝国主義と世界の一体化(続き):④帝国主義と従属世界－インドの事例
22. 第2次産業革命の時代:①時期区分とその特徴;②テクノロジーの役割;③新産業
23. 第2次産業革命の時代(続き):④大企業の誕生;⑤「大不況」とヨーロッパ経済
24. 世紀転換期のイギリス経済と社会政策
25. 世紀転換期のイギリス経済と社会政策(続き)／世紀転換期のドイツ・フランス経済
26. 世紀転換期のドイツ・フランス経済(続き)
27. 19世紀後半のドイツにおける社会政策
28. 19世紀後半のドイツにおける社会政策(続き)／世紀転換期のアメリカ経済
29. 世紀転換期のアメリカ経済(続き)
30. 講義のまとめ&質疑応答

#### 【成績評価方法】

定期試験:20%

中間試験:20%

レポート:15%

日常点(小テスト・課題等):25%

その他:20%(1. 授業内で、その日の授業内容を自分の言葉でまとめる(ミニットペーパーの作成)(15%)。)

2. 講義の中で映像資料を見て、それに関して自分の意見を明確にして小論にまとめる(5%))

#### 【教科書】

特に使用しません。講義中に資料・プリントを配布予定。

#### 【参考書、教材等】

1. 加勢田博編『概説西洋経済史』昭和堂 1996年
2. 飯田隆『図説西洋経済史』日本経済評論社 2005年
3. 奥西孝至他著『西洋経済史』有斐閣アルマ 2010年
4. 馬場哲他著『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房 2012年

※ この授業は、9/12(木)が初回です。